

会 議 記 録

名 称	中央区基本構想審議会快適部会（第4回）	
開催年月日	平成28年7月25日（月）18:30～20:15	
場 所	中央区役所本庁舎10階 第一委員会室	
出 席 者	委 員	市川宏雄（部会長）、伊藤香織（副部会長）、磯野忠、田中広一、志村孝美、平野熙幸、大辻正高、大北恭子、梶原寸真子、今井健、吉田不曇
	幹 事	望月秀彦（環境土木部長）、田村嘉一（都市整備部長）、林秀哉（防災危機管理室長）、御郷誠（企画部副参事（都心再生・計画担当））
配布資料	中央区基本構想審議会快適部会（第4回）次第 中央区基本構想審議会「快適部会」委員・幹事名簿 中央区基本構想審議会快適部会（第4回）座席表 資料1 第3回部会でのご意見等を踏まえた対応状況について 資料2 快適部会報告書（修正案） 資料3 快適部会報告書（案） 資料4 快適部会報告概要（案） 資料5 基本構想の答申に向けた今後の流れ	
議事の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第3回部会でのご意見等を踏まえた対応状況について (2) 快適部会報告書（修正案）について (3) 快適部会報告書（案）について (4) 快適部会報告概要（案）について (5) 基本構想の答申に向けた今後の流れについて (6) その他 3 閉会 	

1 開会

配布資料の確認。

事務局から、前回調査依頼のあった3点について調査結果の報告。

2 議題

(1) 第3回部会でのご意見等を踏まえた対応状況について

(2) 快適部会報告書(修正案)について

事務局から、資料1「第3回部会でのご意見等を踏まえた対応状況について」及び資料2「快適部会報告書(修正案)」を説明。

市川部会長 質問等があればお願いしたい。

伊藤副部会長 まず、資料2「快適部会報告書(修正案)」の5ページ目の「(ア) まちなみに調和した風格のあるまちづくり」に「沿道」という言葉を入れていただきたい。単なる交通空間としての整備だけではなく、沿道と一体となって整備を行わなければ魅力的な空間にならないと思う。例えば「単なる交通空間としての整備だけではなく、沿道と一体となって地域らしい空間を生み出すものである」とするなど、「沿道」という言葉を入れていただきたい。

次に、5ページ目の「(イ) 快適な歩行環境の拡充」に「歩行者道」という言葉を入れていただきたい。世界的にも特に都心では歩行者専用道路を作るという流れがある。例えば2行目を「歩道の新設、拡幅、歩行者専用道の整備などにより」とするのが一案である。

続いて、6ページ目の「(ア) 地域の個性をいかした良好なまちづくり」についてである。前々回に水上交通からの景観ということを申し上げ、それを文章に盛り込んでいただいたということであったが、どこに盛り込まれているのか分からなかった。東京は水上交通が整備されているが、川側に建物の顔が向いていないため他の世界的な都市と比べると魅力が劣っている。そこで例えば「街路からも水上からも魅力的な景観」といった書き方を「水辺の風景などが折り重なり」の辺りに盛り込めればと思う。

市川部会長 川から見ても魅力的な景観としていくということが分かるような文面に表現を変えていただきたい。

伊藤副部会長 次に、2ページ目の「(ウ) 犯罪のない安全・安心なまちづくりの推進」にテロ対策の話があるが、国との関係については触れなくても良いのか。

市川部会長 「警察、消防等」という記載があり、意味合いとしては同じであるため、記載しなくても良いと思う。

伊藤副部会長 次に、3ページ目の「(ア) 水と緑のネットワークの形成」に「花や実のなる木、新緑・紅葉が美しい木を植栽することにより、昆虫や野鳥などの生き物が生息する自然環境を創出し、」とあるが、前段は「新緑・紅葉」と景観の話であるが、それが「自然環境の創出」につながるとなっている。内容自体に異論はないが、文章のつながり方に違和感がある。

続いて、6ページ目の「(エ) 公共交通の整備」の最後のパラグラフに「水辺を利用した交通ネットワークの構築」とあるが、水上交通のことを指しているのであれば、水辺ではなく水上交通と書いていただければと思う。

市川部会長 その部分は「水上交通ネットワークの構築を行うとともに、陸上交通などとの連携」に変えていただきたい。

伊藤副部会長 最後に1点、快適部会として書くべきことかはわからないが、「区民と一緒につく

っていく」ということはどこかに書かれるのか。少し違うレベルの話かもしれないが、区が整備する、サービスを提供するというのではなく、区民と一緒につついていくということが現代的なまちづくりには必要だと思う。今後の話になるかもしれないがご検討いただきたい。

市川部会長
梶原委員

区民との連携については、基本構想全体に共通することである。

資料2「快適部会報告書（修正案）」の1ページ目の「(1)現況と課題」に「インターネット等を悪用した新たな手法による犯罪」とあるが、手法ではなく手口という言葉が一般的ではないか。

吉田委員
梶原委員

基本構想の中では手口という言葉は使いにくい部分がある。

もう1つ質問がある。快適部会の審議の中で、地震の想定については皆が公式な見解を共有しているが、水害の想定についてはまだ認識の共有がされていないのではないか。

事務局

荒川の大規模氾濫では、荒川と隅田川を仕切る岩淵水門が決壊すると隅田川を乗り越えて、最悪の場合は日本橋地域の一部で2～5m、また京橋地域にも浸水が起きる想定である。そこで区では洪水ハザードマップを作成して、区民へ周知をしているところである。

また、津波については、中央区では水門が閉まれば浸水しない想定である。また万一、水門が閉まらない場合でも、月島地域等の一部で50cm程度の浸水がある程度で、大きな被害は生じないものと理解している。

志村委員

資料2「快適部会報告書（修正案）」の2ページ「(7)建築物の耐震化の推進」の文章について、「住宅や建築物の耐震化を図ること」と「緊急輸送を円滑に行う」、この2つのために、広域幹線道路のネットワーク形成が求められているとも読めるため、文章の整理が必要ではないか。

また、「住宅や建築物の耐震化を図ることや」という部分については、「耐震化を強力に推進するとともに」としていただきたい。

それから次の段落の「建物の耐震化を進めるとともに」というところは、「耐震・免震化を進める」というように免震という言葉を加えて補強したらどうかと思う。先日、日本橋三越が営業しながら免震工事を行ったことを知り、耐震だけではなく、免震も大事であると思った。

市川部会長

まず、「強力に推進する」という表現について事務局から何かあるか。「強力」という言葉をここだけ使うと違和感がある。

事務局

耐震化は建物所有者の取組であり、区は働きかけをしているが、所有者の事情もあるため、強制的にはできない部分もある。そのため、このような表現としているが、少し工夫させていただきたい。

市川部会長

次に、免震という言葉を加えることについてであるが、耐震化といった場合には免震、制震といくつか方法があり、それらは耐震に含まれるものなので、同列に並べる必要はないと思う。

志村委員
梶原委員

免震と制震の意味を込めて耐震化という言葉が使われているのであれば構わない。

1ページ目の「(1)現況と課題」に「避難者など大量の帰宅困難者の発生」とあるが「大量」ではなく、もう少し別の言い方が良いのではないか。

市川部会長
今井委員

表現について事務局で検討をお願いしたい。

6ページ目の「さらに晴海では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会時に採用する交通や環境などをレガシーとして」の文章について、新しくつくったものをレガシーとしてという部分に若干の違和感がある。新しくつくった環境が急に遺産になってしまうのかと感じる。

市川部会長

レガシーという言葉は世界で流行っている言葉であり、貴重なものを遺す、一時

的に終わらせるものではないという意味で使っている印象がある。

吉田委員

安易に使い過ぎているかもしれないので検討する。

(3) 快適部会報告書(案)について

(4) 快適部会報告概要(案)について

(5) 基本構想の答申に向けた今後の流れについて

事務局から、資料3「快適部会報告書(案)」、資料4「快適部会報告概要(案)」及び資料5「基本構想の答申に向けた今後の流れ」を説明。

市川部会長

質問等があればお願いしたい。

志村委員

10カ所ほどある。

1つ目は、資料3「快適部会報告書(案)」の7ページ目の「(ア)水と緑のネットワークの形成」に「風格あるまちの形成」とあるが、中項目が「①水とみどりにつつまれたやすらぎのある空間づくり」となっているため、「風格」を「やすらぎの」に変えるともう少しイメージが湧くのではないかと。

2つ目は、9ページ目の「(ア)地球にやさしいまちづくりの推進」に「森林を守る」とあるが、木材の利活用も普及・啓発が必要であるため、「森林を守る」の前に「木材の利活用や」を入れると良いのではないかと。

3つ目は、9ページ目の「(ア)環境に対する意識啓発と発生抑制の促進」に、3R運動とあるので、「また、まちづくりにも3R運動を反映させ、既存建築ストック活用型のまちづくりに本格的に取り組む必要があります」という文章を入れると良いのではないかと。文部科学省「21世紀COEプログラム」で紹介された首都大学東京の饗庭伸准教授の「巨大都市建築ストックの賦活更新技術の育成」は既存のストックを活用することで建物をスクラップアンドビルドしないで、どのようにまち全体の価値を上げることができるかという研究である。これからのまちづくりで求められているのは、リノベーションやコンバージョンなどの既存建築ストック活用型のまちづくりだと思うので、発生抑制を含めて、3R運動を反映させるということから、この文章を入れると良いのではないかと考えている。

4つ目は、10ページ目の「(1)現況と課題」の12行目に「さまざまな先進技術を推進し、すべての人が安心して安全かつ快適に利用できる強靱な都市機能の整備が求められています。」とあるが、今回の修正案では「(2)施策の方向性」の中で「すべての人が安全・安心に利用できる強靱な都市基盤の形成や都市景観の向上に向け、電線共同溝の整備を推進していくとともに、老朽化が進む橋りょうの歴史的景観や価値を遺しながら長寿命化を図っていくことも重要です。」が削除されているため、10ページの「(1)現況と課題」の部分についても削除する必要があるのではないかと。

5つ目は、10ページ目の「(1)現況と課題」の「世界をリードする都市」という表現は「世界に誇れる」などに少し変える必要があると思う。里山資本主義で有名な藻谷浩介氏は、まちづくりなどについて「日本と韓国以外の国では、国土構造や経済体制の面で、メインフレームシステムを執行しているところはどこにもなく、欧米やアジアではサーバー&クライアントシステムが採用されている。」と述べている。世界の流れがメインフレームシステムよりもサーバー&クライアントシステムが主流になっている理由はリスクヘッジである。メインフレームシステムをまちづくりで言えば一極集中で、藻谷氏はこれからの東京は「一極集中ではなく、世界の常識となっているリスク回避のため集中化した行政や大企業の本社機能、中枢管理機能の分権と分散の推進による理性的で科学的な都市政策を進めるべきである。」と

指摘をしている。世界のスタンダードではないまちづくりを進める東京が世界をリードすることはできないと思い、「世界に誇れる」くらいが良いのではないかと思う。

6つ目は、10ページ目の「(ア) まちなみに調和した風格のあるまちづくり」についてである。前回、この風格とは「歴史と伝統と風格だ」と回答いただいたが、「(ア) まちなみに調和した風格のあるまちづくり」の文章に「風格」という内容がないので、「環境に配慮した」と変えたらどうか。

7つ目は、12ページ目の「(ア) 地域の個性をいかした良好なまちづくり」の「こうしたことからまちづくりに際しては、」の次に「区民の意見を最大限に反映させることと、地域の合意形成が重要であり、」と挿入したらどうか。10ページの「(1) 現況と課題」に「また、本区はその成り立ちや地域の営みを通じて育まれてきた個性豊かなまちが数多く存在しています。」とあるように、色々な地域個性は、色々な営みを通じて育まれてきており、これからも育むものだと思う。

8つ目は、12ページ目の「(イ) 世界に発信する魅力的なまちづくり」に「有形・無形の歴史的遺産」とあるが、先日の議論でも「新しいものだけではなく、歴史や文化が育んでいる」とされていたことから、この後に例えば「また、区内には個性豊かなまちなみも存在しています。」という文章を加えてはどうか。単なる流通だけではなく、路地や看板建築、佃の新旧のまちの魅力などの地域資源も含めた個性豊かなまちなみということも必要であると思う。

最後に、12ページ目の「(イ) 世界に発信する魅力的なまちづくり」に「国際都市東京の中心にふさわしい風格あるまちにしていく」とあるが、「風格ある」という意味が分からないので、この「風格がある」という言葉はなくても良いのではないか。

市川部会長

指摘について順番に確認していきたいと思う。

1つ目は、風格のことであるが、風格は最も重要だと思う。風格なきまちはないと思う。私は風格という言葉をとってしまうのは反対である。

2つ目は、「二酸化炭素吸収源である森林の保全活動支援を推進するとともに、森林を守る」だけでは足りずに木材の利活用についても加えたいとのことであるが、どこまで詳細に書くかという話かと思うので、事務局で検討していただきたい。

3つ目は、「③循環型社会づくりの推進」の「(ア) 環境に対する意識啓発と発生抑制の促進」において、発生抑制をどう書くかである。「環境に対する意識啓発と発生抑制・再使用・再生利用を促進するため、3R運動の拡充と資源分別の徹底を図り」とあるのは、環境全体でまちを考えるとということであり、都市の運営としての話をしているので、この部分にまちづくりだけを入れることには違和感がある。当然まちづくりも含まれているため、わざわざ書く必要はないと思う。また、巨大都市における建築ストックの話で、饗庭氏の資料への言及があったが、この文章には影響はないかと思う。

4つ目は、10ページの「さまざまな先進技術を推進し、すべての人が安心して安全かつ快適に利用できる強靱な都市機能の整備が求められています。」の部分であるが、指摘の内容をもう一度確認させていただきたい。

志村委員

資料2「快適部会報告書(修正案)」の5ページ、「(1) 現況と課題」の13行目の「さまざまな先進技術を推進し、」というのは第3回専門部会の素案に記載されていて、今回の修正案でも変わっていない。しかし、「(2) 施策の方向性」の「(ア) まちなみに調和した風格のあるまちづくり」の「すべての人々が安全」という部分は、今回の修正案では削られて文章が変更されている。

吉田委員

資料2「快適部会報告書(修正案)」の5ページの13行目の「すべての人が安心して安全かつ快適に利用できる強靱な都市機能の整備が求められています。」という部分は資料3「快適部会報告書(案)」の10ページの中段にある。その部分は変更なく載

っている。また、資料2「快適部会報告書（修正案）」の「(ア)まちなみに調和した風格のあるまちづくり」の変更箇所は資料3「快適部会報告書（案）」では11ページとなっている。「(1)現況と課題」では削除されているわけではなく、前回から変更がない。

志村委員 「(2)施策の方向性」で削ったのであれば、「(1)現況と課題」でも削って整合性を取った方が良いのではないか。

吉田委員 「(1)現況と課題」と「(2)施策の方向性」で同じ文章を使う必要はないと思う。

市川部会長 「(1)現況と課題」に書いてあるようなことを考えることは重要なことである。

市川部会長 5つ目は、「世界をリードする都市」の表現であるが、なぜリードではいけないのか。

志村委員 謙虚さがないと思う。また、地域文化を受け継ぎながらということであるが、リードするものとして、この文章の中でもそぐわないと感じる。

市川部会長 英語では world leading city を使っている。世界に誇れるでは分からないが、leading と言われると納得できる。日本語で言うと似ているが、英語で leading と言うと全然違って、明らかに他よりも何かが尊敬される素晴らしさを持っている時に使われる。

磯野委員 ここはリードの方がいいと思う。

市川部会長 リードは大体の日本人が分かると思う。ここは事務局に妥当かをもう一度見てもらえればと思うが、私はこのままの方が良いと思っている。

6つ目は、「(ア)まちなみに調和した風格のあるまちづくり」の風格という部分であるが、風格のないものは存在しないと思うので、このままで良いと思う。

7つ目は、「(ア)地域の個性をいかした良好なまちづくり」の「こうしたことからまちづくりに際しては、地域の実情を踏まえて国際的な」とある部分に「区民の合意」という言葉を入れたいとのことであるが、先ほどの伊藤副部会長の意見と同様で、基本構想全体の中で盛り込めば良いと思う。

8つ目は、「(イ)世界に発信する魅力的なまちづくり」の「こうした有形・無形の歴史的遺産を活用しながら」の部分について、個性豊かなまちなみが入っていないのではないかという指摘であるが、むしろ前の段落で、江戸時代からの文化という中に、個性あるまちなみが入っていないという指摘の方が話は分かる。表題が「(ア)世界に発信する魅力的なまちづくり」なので、第1パラグラフは少し足りない。その話の延長線上に次のパラグラフがあれば良いと思う。個性豊かなまちなみについては、先ほど具体的な場所はどこと仰っていたか。

志村委員 例えば佃の看板建築、危機遺産や月島の路地、商店街などである。

市川部会長 個性豊かなまちなみについては、もう一度、事務局に検討していただきたい。

最後の「国際都市東京の中心にふさわしい風格あるまちにしていく」の部分については、既にお示しのとおり、変更の必要はないと思う。

田中委員 資料3「快適部会報告書（案）」の8ページの「(イ)公園・児童遊園等の整備・充実」について、「さまざまな機会を捉え、さらに整備していく必要があります。」と修正していただいている。前回「積極的に」と申し上げたところ、全体のバランスも鑑みた結果の表記であると思っているが、特にこの20年間の中では、晴海と築地市場の土地利用についての話があり、最大のチャンスであるため、「積極的に」と申し上げたが、その点を理解していただいているのかどうか、念のためにお伺いしたいと思う。

事務局 「積極的に」という表現ではないが、そういったことを踏まえた表現である。

田中委員 資料3「快適部会報告書（案）」の9ページを見ると、「水素エネルギーを積極的に活用していただく必要があります」と他に「積極的に」を使っているが、想いは強い

か、念のため、伺いたい。

事務局

特に差をつけているわけではない。東京都が積極的に活用していくとしているため、同じ表現にしている。想いとして変わるということではない。

志村委員

資料4「快適部会報告概要(案)」の「②地域文化をいかし未来を実現するまちづくり」の「地域の個性」の中に「国や都などの関係機関や事業者、地域などと連携し地域の伝統や文化を継承したうえで新たな個性を生み出し融合したまちづくりを実現」とあるが、「融合したまちづくり」という文章では、何と何が融合したかが分からないのではないかと。資料3「快適部会報告書(案)」では「地域の個性と未来を融合させ、新たな価値を創造する取組が重要です。」とある。「新たな価値を生み出すまちづくりを実現」の方が分かるのではないかと思う。

市川部会長

誤解のないよう事務局で調整していただきたい。
他に何かあるか。

市川部会長

ここで、これまで当部会において、20年後を見据えた今後の施策の方向性について審議を重ねてきた中で、感じたことやご感想等をいただきたい。

大辻委員

私はどちらかというと保健医療の方が得意分野であり、安心部会の方が向いていたかもしれないが、障害者や病気をしても過ごしやすい都市計画ということで、バリアフリーについて書いていただいたので満足である。できれば禁煙のことも書いていただきたかった。

平野委員

資料4の「①都心にふさわしい基盤整備」の「交通環境」のところで、東京都に架橋されている高速道路すべての地中化を実現していただければ、東京の都市交通、さらに災害の面で20年先も大変明るいと言える。都心にふさわしい基盤整備の将来ビジョンとして、東京都内の高速道路をすべて地下化することを提案してほしい。

今井委員

幹事の方々に色々な発案をいただき、中身についても市川部会長をはじめ、専門的な方々の意見にとっても感心していた。私や梶原委員は区民の立場で、日頃感じることを発言したが、幹事の方々にきれいにまとめていただいたことに感謝している。1つの部会として非常に中身のある議論を経ながら、良いものができたと思う。

梶原委員

資料がしっかりしていたので初心者にも分かり易かった。私はベビーブームを実感しており、先日は2件続けて出産祝いがあった。過ごしやすい証拠だと思う。

志村委員

前回、適正人口について議論になったので、私の考えを申し上げたい。例えば予算から見た場合、直近6年間の平均で区民1人当たりの予算額は64万4千円である。区の人口推計の最高値23万7千人となった場合には単純計算ではあるが、1,526億円の予算が必要となる。このように人口増は予算と関係する。第1回目の部会で配布された資料1「本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について」の2ページに2046年までの人口推計があるが、最高と最低の差ができるだけ少ない方が望ましいと考えている。中位推計の2031年で22万人になっており、それ以降ずっと下がって20万人を切り、2046年に約19万人まで下がる。低位推計では約16万人まで下がるかとされている。予算の面から見ると、20万人から18万人のあたりを中心とする適正人口の目安があるのではないかと思う。

大規模再開発事業による人口増に歯止めをかけ、将来的には減少させないという量から質へ転換するまちづくりが求められているということが私の考えである。

田中委員

今回の部会の中で、私は特に公園を1つのテーマとして掲げていた。マンションや商業施設やオフィスが建って変化が激しい中であるが、変わらないものはやはり公園であると思う。アンケート等にも公園がほしいという意見がある。景観は10年と言うが、風景は100年という表現もあるほどであり、そういった意味で公園が重要である。家庭という言葉が英語に置き換えるとハウスとガーデンと言えるが、家は

あってもガーデンがないといった意味も含めて、やはり公園が必要だと指摘させていただいた。また、部会の第1回目の時に安心、安全と安定が大事と申し上げた。安定は色々な考え方があるがその中の1つに、変わらないという点があると思う。まちが変わっていく最中であるが、公園に思い出があるという変わらない想いを乗せることができるまちづくりが大事だと思う。

磯野委員

今回の基本構想見直しは私もからも提案していた。現在の基本構想は平成10年に策定しており、人口が一番少ない時期であった。今は14万人を超えて、倍以上の人口となり、今後さらに増加するということである。見直しにあたっては各種団体へのヒアリングや会派の中でも政調会を何度も開き、色々と検討した。快適部会は、犯罪や災害、水と緑の環境の問題、都市機能と、とても大きな部分で携わっているので、ヒアリングや検討した内容を反映させたいと思って発言をさせていただいた。毎回の発言は報告書等にまとめていただいた。今後の基本計画にこれらをしっかりと組み入れて進めていただきたいと思います。

吉田委員

今日お話しいただいたことも含めて、快適部会だけで解決できない問題もたくさんあると思う。今後、基本構想審議会の中で、3つの専門部会をまた横串を刺して、具体的に総合的施策としてどのように展開するかが大事だと思うのでご意見等をいただければと思う。

また、施策の中で、自治体で行うもの、地元の方々に考えていただくもの、自治体と地元が一緒に行うものがあり、あらゆる施策でそれぞれの担い手を考えながら展開しなくてはならない局面があると考えている。伊藤副部長、志村委員からも住民の合意ということがあったが、実際には担い手についてもしっかりと考えなくてはならないと思う。そういったことも基本構想審議会の全体の中で議論させていただきたい。

伊藤副部長

バランスの良い3つのトピックを挙げていただき、様々な立場からご意見をいただいて、非常にバランスの良いものになったと思う。基本構想は20年後を見据えており、快適部会は比較的ハードに関わる事柄が多いので、区民は少し遠く思われるかもしれないが、一緒につくる、あるいは担い手になっていただくことは非常に重要であると思う。区民の意見に耳を傾けることはもちろんだが、区民自身も主体として、自分事に思っただけであればと思う。そのための義務感も必要だが、まずは20年後の中央区が楽しみになるような基本構想になれば良いと思う。

市川部長

大辻委員の禁煙の話は千代田区でやっているのでできるはずである。今回をきっかけに考えてはどうかと思う。

平野委員の首都高の地下化の話は財源の問題はあるが、20年から30年後には実現すると考えている。

公募委員の今井委員と梶原委員に参画していただいたが、そもそも中央区は区民の意識レベルが高い区であるが、お二人は特に意識が高く、様々なご意見をいただいた。ありがとうございました。

志村委員の適正人口は財政の視点からの話であるということが分かった。日本を含め自由社会では人口はコントロールできないため、それが良いか悪いかではなく、いかに付き合っていくかがテーマだと思う。

中央区で公園というのはどうかと思っていたが、努力をすれば増えるという話はある。私も生まれも育ちも東京だが、一時期と比べて公園は増えているので、努力をすれば増えていくものである。

磯野委員の色々な団体から話を伺ったという話があったが、そういう意味では今回の基本構想審議会は3つの専門部会でバランスが取れていると思う。

私は大半の都心区と付き合いをして来ているが、中央区は初めてで新鮮であった。

区によってカルチャーが違い、中央区もまた違うカルチャーだったので楽しませてもらった。今後はこれがうまくまとまっていくことを期待する。

(6) その他

市川部会長 その他、何かあればお願いしたい。
(発言等なし)

3 閉会

市川部会長の閉会宣言により終了。